

# 横芝の碑

(その五十一)

## 坂田の水神様と弁財天

多古街道沿の坂田池と城山の裾が一緒になる辺りは、農業用水の取水口であった所で、今は樹齢も解らないような常緑樹と笹藪が生い繁っています。ここに地元の人々が水神様と呼んでいる祠があります。鳥居は街道に面して東方に向いており、祠は北方に向いています。そして祠の懐には、弁財天と刻まれた石が納められています。

水神様は水の霊力を支配する神として各民族の中で信仰され、日本の様に水田耕作の民族の中では農業の神として水田や河川の畔等に祭られてきました。そうした場所の多くは湿地帯で、蛇が棲息し易く、また、蛇は足も、鱗もないのに水中を泳ぎまわる不思議な力を持ち、農家の害敵である鼠等も捕食してくれる事等から、何時か水神は蛇の神格化したものであると考えられるようになってきています。そして弁天様は七福神の一神で、財宝を運び、音楽で衆生を済度する神とされ、これも水辺に祭られていることが多いのですが水神様とは全く別の神様である筈

です。それに神社の社殿や祠は殆んど東か南を向いているのに、この祠は何故か北向きなのです。しかも、これと同じ方向を向いた水神様らしい神様の祠が芝山の太台にも建っているのです。このことについて坂田城山附近の人々の中に、こんな話が伝えられています。

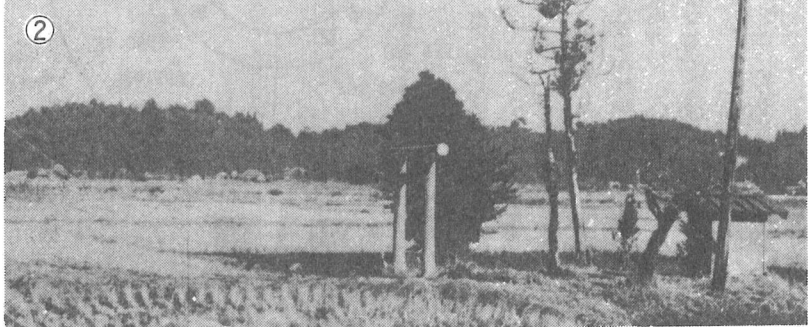
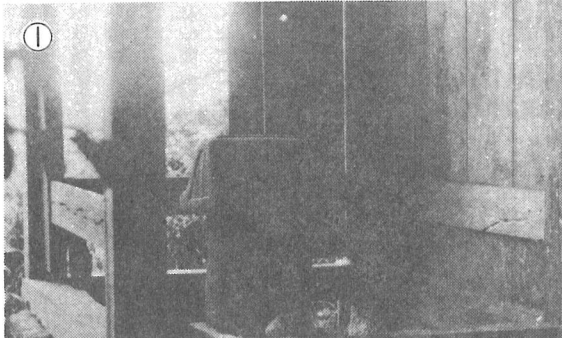
坂田の水神様は、坂田城趾の中に祀られている清姫塚の清姫を祭ったもので、祠が北を向いているのは、相手の若殿を祭った水神様の方に向いているのだ、ということです。前に悲恋塚として清姫塚を扱ったこともあり、早速芝山大台城の裾を訪れて見ました。現在要害山と呼ばれている大台城趾に向いて田圃の中に建っている祠を附近の人々は水神様と呼び、弁天様と呼んでいましたが、毎年収穫が終わると豊作祈願祭を行っている、ということですから、やはり水神様としての性格が強いように思われます。また或おばあさんは「この弁天様は外にいま一つあって、二つは仲がよく、向うの弁天様はこつちを向いているそう。この弁天様は三年位前に

火事になったが、それまではもつと古い木もあって、よくその枝等に蛇がからんでいたりしたものだ、時には白い蛇が見付かり、弁天様の主だ、と言って騒いだこともある」等と話してくれましたが、恐らく、いま一つの弁天様というのは坂田の水神様で、坂田附近の人々のお話による大台の若殿が祭られている水神様というのは、大台の弁天様のことだろうと思います。

写真①は坂田の水神様で、石造りの祠の上額部には、水神、その左右には元録十丁丑三月吉日、長蓮寺賢清、永田弥左右衛門、と刻まれ、中に納められている弁財天の石は将棋の駒形をしています。刻まれている長蓮寺のことについて、町史編纂にも尽力された地元

の実川堅司郎さんは、「長蓮寺という寺は坂田城の武将等が帰依した寺で昔はなかなか立派な寺だったらしい、今でも墓は残っている。この話の清姫塚も、一時は何の墓か判らなかつたが、長蓮寺の或壇徒の方が、何かの機会に観てもらった封に『祭るべきものが祭られずにいる』というのが出て、『封が示す方向と時代等から、清姫塚が陽の目を見た』という経緯もあります」と話してくれました。

坂田池が農業用水として利用された始めは天和二年(一六八二)ですから、元禄十年(一六九八)という年号から見ると、或いは弁天様の建っていた場所に水神様を祭ったのかもしれない。



写真②は、芝山大台の弁天様で祠の真正面は大台城(清姫想愛の若殿の城と伝えられる)趾になっています。鳥居の脚元には、五輪塔の頭部の様な石片や、文〇〇年等と辛うじて読める石柱等が由緒あり気に土中から姿を見せていました。(本稿取材に当り、坂田実川堅司郎さんに御協力を頂きました。)

尚、坂田城山も池も既に御存知の場所としますので案内図は省略させていただきます。  
(町文化財審議会委員 小沢春光氏寄稿)

### 訂 正

広報よこしば一四七号、一面、農業改良共進会の部の受賞者紹介の中で、▽千葉県園芸協会長賞伊藤一とあるは伊藤祺一の誤りでしたので訂正してお詫びいたします。

